



辰は、原形ははまぐりが貝殻から足を出している形を象った象形字ですが、今は貝の意味には全く用いられません。その代り、辰と虫との合字である蜃が、“はまぐり”という意味を表わしています。

辰は、十二支の第五位として用いられたため、方角や時刻、年月日を表わすのに使われて、「時^{とき}」や「日^ひ」の意味によく使われています。「良辰」は“良い日”という意味、「辰刻」は「時刻」という意味です。「星辰^{ほし}」は星という意味ですが、「三辰」は、日と月と星との三つを含めた意味になります。部首としても、一定した意味に使われないので、ちょっとやっかいな字です。音はシンです。

晨は“日が辰の方角(子が北、午が南で、この間を六つに分けて、順に“丑寅卯辰巳”)となりますので、東からわずかに南に片寄った方角です。ついでに言いますと“子午線”というのは、地球を南北に結ぶ線、という意味の字です)にあるころ”という意味で、太陽が出てまだ間もないころ、つまり“朝”を表わした字です。

震は、雷と同義の字です。雷の訓の“かみなり”は“神鳴り”の意味で

すが、漢字の「神^{シン}」も本義は実は雷なのです。雷の古い字形はで、は車輪の形です。雲の上で、天の神様が車を引き回している音が雷鳴(神鳴り)だと考えられていたのです。雷は雨を伴うので、後に雨が付いたものです。また、も一つに省略されました。

電は、雷から出る“いなずま”を表わした字です。古い字形では、やはり雨はありません。神の申が、この電のと同じ、“いなずま”を表わした字です。つまり、神は、いなずまによって、天にある“かみ”を表わした字なのです。ついでに言いますと、神は、天の神で、地の神が社です。社は、“土地の神(ネ)”という意味の字です。「社会」は、この土地の神(社)を中心に人々が集合(会)して作られるので「社会」と言うのです。

震は、神の意味の辰と雨とて作られた、“かみなり”が本義の字なのです。雷鳴は大地をびりびりとふるわせますので、“ふるわせ”意味が生まれました。「地震」というのは、雷鳴によって生ずる震動のことを言うのです。中国にはないのですが、わが国では、今私たちが「地震」と呼んでいるものが多いので、用法が

中国と変わってしまったのです。

振は、震の意味の辰に手を加えて、“手をぶるぶるとふるわせる”意味を表わしたものです。手をふるが本義ですが、今では、手に関係なく使います。振動。振興（ふるいおこす）。

脣は、震の意味の辰に肉を加えて、“ぶるぶるふるわせることのできる肉体の部分”つまり“口びる”を表わしたものです。

唇は、よく脣の意味に使われますが、本義は“驚いて口から大声を出す”ことです。今は、脣の代りに使われています。

娠は、胎児がおなかのなかで動く意味を表わす辰と女とで、“はらむ”ことを表わした字です。妊娠。

賑は、財貨（お金）の意味を表わす貝と、動く意味を表わす辰との会意形声字で、“お金が動いて景気が良い”という意味を表わしています。“にぎわう”こと。殷賑。また、貧困な人々に金品を与えることとも言います。賑恤（^{ジュツ}にぎわす）。賑救。

蜃は、辰の本義である“はまぐり”と虫との会意形声字です。やはり“はまぐり”の意味を表わしていますが、また、想像上の動物「竜」の一種“みずち”とも言います。「蜃気楼」とは、この蜃が

はき出す気によってできる空中の楼閣であるとの考えで名付けられたものです。